

令和2年度 学校関係者評価報告書

専門学校ファッションカレッジ桜丘は「夢の創造」・「文化の創造」を提供し続けるエクセレント・カレッジ（excellent college）を目指すことを標ぼうし、夢を創造し、文化を創造することが、ファッションを教授する服飾系高等教育機関の基本と考える。

専門学校ファッションカレッジ桜丘自己評価の結果に関して客観性と透明性を高めるとともに、学外の有識者から専門的助言を受け、外部評価を得ることを目的として学校関係者評価を実施しましたので報告致します。

1、実施年月日 令和3年3月31日

実施校 専門学校ファッションカレッジ桜丘

2、学校関係者評価委員

小野芳行（元 YKK 株式会社）

椎野伝一（有限会社丸伝代表取締役 流通総合コンサルタント）

西室充子（卒業生 日本ファッションクリエイター協会）

学校関係者

関 太（校長）

岩寄達弥（事務長）

菊池伊都子（教務部長）

3、評価方法

令和2年度 専門学校ファッションカレッジ桜丘自己評価報告書に対する
学校関係者評価

4、評価項目

- （1）教育理念・目的・人材育成
- （2）学校運営
- （3）教育活動
- （4）学習成果
- （5）学生支援
- （6）教育環境
- （7）学生の募集と受入れ
- （8）財務
- （9）法令等の遵守
- （10）社会貢献・地域貢献

令和2年度 自己評価報告書

学校法人桜丘学園 専門学校ファッションカレッジ桜丘

基準1. 教育理念・目的・人材育成

学園の基本理念は「夢の創造」・「文化の創造」を提供し続けるエクセレント・カレッジ（excellent college）を目指すことを標ぼうし、夢を創造し、文化を創造することが、ファッションを教授する服飾系高等教育機関の基本と考える。学園は他の服飾系専門学校と一線を画し、独自の価値観と行動様式を持ち、桜丘学園らしさ、固有性を積極的に持つことである。また、教育理念は「学生一人ひとりを大切にし、愛情をもってきめ細やかな指導で、専門知識・技能の習得および人間性豊かな人材を育成する」。教育理念の根本は普遍的なものであるが、学園の教育目的やその目的を達成する人材育成は時代の変化に対応する必要がある。現在ファッション業界のみならず産業界全体にデジタル化の流れが急加速している。ファッション小売業も顧客との接点をリアル店舗、アプリからeコマースに至るまで最適な小売り体験を提供するオムニチャンネル化への進化から、AI（人工知能）を活用したマーケティング、マーチャンダイジング。また、デジタル化されたものがインターネットを介して伝達されるIoT化へと加速度的に変化している。学園に於いてもICT教育を推進することにより、この時代の変化に対応する人材育成が次のステージに向けての最重要タスクである。今後はファッションの分野に留まらず認可を受けた第1分野（工業）デジタル専門課程を開設することにより、学園の教育の幅を広げ産業界に貢献する教育機関、人材育成を目的とする。

基準1. 教育理念・目的・人材育成に関してご意見をお聞かせください。

*学園の教育理念は不変であるが、取り巻く環境（教育・社会・経済など・・・）の変化に鋭敏に対応し、桜丘学園が更なる高みを目指す教育機関であって欲しい。

新年度：（工業）デジタル専門課程（開設）と既存の学科との相乗効果をも図って欲しい。

（ファッションに関心のある学生は比較的ITに弱く、ITに関心のある学生はファッションへの関心が少ない傾向がある。業界が求めるITが分かるファッション人材育成を目指して今後カリキュラムの相互互換を検討したい。）

*第一に大切な事。教育理念は守ってください。時代の変化に対応することをよく考えて話し合って進めてください。認可を受けた第一分野は大変良いことです。

（教育理念は普遍的であるが、教育目標は時代の変化に合わせて対応していく。時代のニーズや業界のニーズを教員と情報交換し教育に反映する。）

基準2. 学校運営

学園の基本理念・教育理念に基づき、事業年度毎に事業計画を作成し、理事会、評議員会の承認のもと、教職員全体会議で全教職員に周知徹底され、計画的に実践されている。

教育事業の根幹は教務部が担い、学校全体のプラットフォームは事務部が整える。学校継続の推進力となる学生募集、広報活動は企画部が担当して各部が責任をもち連携して事業にあたる。また新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け学内の行事は円滑に実施できなかったが、実施可能な行事に関しては、各行事を学内プロジェクトと位置付け、プロジェクト委員を任命し、校長、教務部長、事務部長を中心にプロジェクトリーダーと連携して感染対策を徹底し事業運営にあたる。カリキュラムの編成に関しては、各教職員、外部講師、業界関係者との情報収集により、業界のニーズに即したカリキュラム編成を実践する。学園組織は年度毎に見直し、実際の学園運営と組織体との整合性のチェックが行われている。各教職員の行動計画や情報提供はインターネット上に公開し、効率よく機能的に運用できる様に管理、提供されている。

基準 2. 学校運営に関してご意見をお聞かせください。

＊コロナ禍の中 昨年度は学園・先生方、生徒さん達も大変なご苦勞を為されたことと推察致します。新年度もこのご苦勞（禍）は継続しており、昨年以上に学園関係者の皆様に於かれましては、気の許されない日々が続くと思われませんが、新たなツールの開発・活用などを通じ通常時と変わらぬ、それ以上の効率化を目指した、学校運営を切望いたします。

（実習偏重型カリキュラムではあるが世の中の流れを受けてオンラインでの授業の対応を検討していきたい。）

＊コロナの件は日本中が大変なことになっています。学校の運営も少人数制を生かして良い生徒を育てることは学校のレベルが上がるのが夢。

（結果として少人数制教育がコロナ禍の中では幸いしたが、今後の学校経営を考えると学生 150 名体制を確立、維持することが求められます。オンライン授業など新たな選択肢を準備する必要があると思われます。）

基準 3. 教育活動

平成 28 年に導入した選択制カリキュラムも 5 年が経過。ファッション業界のニーズに合わせながらカリキュラムの編成を変えてきた。ファッションクリエイト科、ファッションビジネス科と学科別に縦割りになるカリキュラム構成を選択制にすることで全ての学科で横断的に受講できる体制で学生交流や学びの幅を広げることができる。2 年生、3 年生からの選択であるため、ファッション業界の第一線で活躍している有識者を招聘することにより、高度な授業が展開され学生の満足度の高い。学習の成果である一般財団法人日本ファッション教育振興協会のパターンメイキング検定 2 級、3 級対策も充実し、受験合格率も高い。また、今後ますます重要度がます、イラストレーター、フォトショップのソフトの習熟度も少人数制での指導により大きな成果を上げている。また、アパレル C A D に関してはインターナショナルなブランドで現役で活躍しているパタンナーを講師に迎えより実践的な教育が推進されている。

基準 3. 教育活動に関してご意見をお聞かせください。

＊日本に於けるファッション業界を取り巻く環境は確かに厳しいものと推察致しますが、ファッション（業界）は大きな裾野があり、且つ「文化」であると思慮しております。この大切な分野で活躍される若い世代を生み出す為、学園・教授陣・生徒が一丸となり、更なる高みを目指して頂けるものと確信しております。

（これからはファッション業界も更にＩＴ化が進むと思われます。求人もデザイナー、パタンナーのニーズが減少し、ＥＣサイトの構築、運営スタッフの求人が増加しています。学園もＩＯＴ教育を推進し、企業のニーズに合う人材を育成したいと思います。）

＊イタリアのマランゴ二校のセミナーに出席することがありましたが、一番よい授業は現役で活躍している講師が来ていることが強み。現在働いている仕事の間とつながっているので遅れないとのことを思い出した。現役講師を迎えることは良い勉強ができると思います。

（現役の人材を講師に迎えるのは、非常にハードルの高い作業ですが、双方にメリットを見いだせば実現は可能です。今後も人材に関する情報収集を怠らず、時代にマッチした講師陣で教育の実践にあたりたいと思います。）

基準４．学修成果

学習の成果を出来るだけ可視化することを目的として学園では必須検定として受験している、一般財団法人日本ファッション教育振興協会のパターンメイキング検定３級１次の筆記試験及び２次の実技試験ともに合格率が１００％と優秀な成績であった。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け日程が変動したが、２年生が受験するファッション販売能力検定２級の合格率は４０％、だったが１年生が受験する３級は合格率が１００％と優秀な成績を収めた。２年生が受験するファッションビジネス能力検定２級の合格率は３３％と全国平均を下回ったが、１年生が受験する３級は合格率１００％と優秀な成績を収めた。また、必須検定の指定では無いが学習意欲が高く受験した、

フォーマルスペシャリスト検定準２級の合格率は９２％、色彩技能パーソナルカラー検定モジュール１の合格率は１００％、モジュール２も７５％と高い合格率を確保した。検定以外にも論理的思考や表現力、説得力など学生個々の能力向上を目的として１年生ではマーチャンダイジング、ファッション画、コンピュータワークで成果をプレゼンテーション。２年生、３年生はファッションデザイン、ブランドクリエイションで成果発表を行う。

また学内２大コンテストであるファッションビジネス科２年生を対象とするＦＣＳプロモーションコンテストは１０月に開催し、２月開催のファッションショーでの作品を評価するＦＣＳファッションコンテストは新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け学内のみで審査をし、学習の成果はＬＩＶＥ配信を中心に行った。

就職支援に関しては、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、募集企業が激減。教員がインターネット上で求人を検索して学生に紹介し就職につなげた。また、１年生へは就職支援企業の協力を得て、学内でオンラインで企業研究会を開催し、企業情報、職種情報、働く事の意義などの講義の情報を提供し、就職活動をサポートした。

基準4. 学修成果に関してご意見をお聞かせください。

*学習成果、コロナ禍にも拘わらず、昨年度は大変優秀な結果であったとのこと。これもひとえに学園・教授陣・生徒さん達との信頼の証と推察致します。学習成果は可視化が可能であり、明確な数値目標の設定も可能であるので、この設定（より高みを目指した）と検証の継続。

（学習意欲の高い学生に支えられた結果ではあるが、学習に向かう動機付けは非常に重要であると考え、今後も継続して結果が残せるように努めたい。）

*ファッションビジネス科2年生の合格率が低いのは残念です。頑張っ
て欲しいです。新型コロナの為に何かと大変と思いますが、学内のオンラインで企業研究会を開催する
方法は現時代としては良い方法。時代を把握しながら進めることは大切です。

（2年次は就職活動、検定、学校行事と1年次よりは多忙になるため検定に集中できない、若しくは検定を受験しない学生が散見されるので、計画的に授業を進め、無理なく就職活動、検定受験に臨める環境を醸成したい。）

基準5. 学生支援

現在日本では2.6人に1人が奨学金を利用して進学している環境下、当学園においても経済的な不安、負担を感じながら学業とアルバイトを両立し就学している学生が散見される。また、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け家庭の収入やアルバイトの収入が減少して就学の継続が困難な学生に対して高等教育の就学支援制度の認定を受け経済的に学生をサポートする体制を整えている。また、本年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響での自粛など学業以外の過度なストレスが学業の遅れ、遅刻欠席過多、退学等に発展する恐れがあるため、個々の学生の生活環境を正確に把握することで防止につながる。学園では前期、後期の期初に担任が受け持ち学生に対して時間をかけて個別面談を実施している。この個別面談で学生生活での問題点や学外の生活、家庭環境での問題を早期に把握し、学習の停滞や生活の乱れ、退学などを防ぐ対策を講じている。この個別面談の情報は全ての教職員で個人情報厳格に管理された上で共有され、全ての教職員が同様の対応が取れるよう整備されている。また、専門学校は職業教育が使命であるため全学生の就職を目指し、就職情報の提供や個別の面談、就職指導を実施して大きな成果を上げている。また、社会人としての意識付けのためにボランティア活動に参加するなど指導を行っている。その他、学内行事に於いても、学生内で担当の係を決め、学生の自主性を大切に行事を運営することを心掛け、リーダーシップ、協調性、計画性などを高められるよう指導している。

基準5. 学生支援に関してご意見をお聞かせください。

*昨年度 コロナ禍で大変ご苦勞を為されたことと思いますが、新年度も先の見通しが
つき難い年になりそうです、特に生徒さんたちの中には、経済的・精神的などなどで
苦勞・悩みなどを多く抱えている方々も多いのではと推測せざるを得ません。どうぞ
学園・教授陣に於かれましては、一層 生徒さん達に寄り添った支援をお願いします。

（新年度を迎え、早期に学生面談を実施し、学生の家庭環境等を含め情報収集し、適切

に対応したい。)

*コロナの為にストレスが大きいことは良くわかりますが、先ずコロナに気を付けるのが第一です。充分気をつけてください。

(感染予防対策に関しては都度、注意を喚起しています。高等教育の就学支援制度の活用に関しても広く情報提供を行い、不利益になる学生がいないように細心の注意を払いたいと思います。)

基準 6. 教育環境

新型コロナウイルスの感染対策は、朝の専門業者による全館清掃、教職員による午後の一斉清掃により清潔に保たれている。各教室に消毒液を設置し、定期的に換気を行い感染対策を講じている。また、テーブル間にアクリルボードを設置、講師へのフェイスガード、マウスガードの配布、講義用のマイク等の音響設備を整えるなど飛沫感染対策も徹底して行った。オンラインでの企業研究や就職活動用に学内のパソコン用にカメラを準備して学生の活動をサポートした。

基準 6. 教育環境に関してご意見をお聞かせください。

*ファッション系の学校に於いては、対面授業が必須と推察します。ご足労ですがこのような環境下、新型コロナウイルス感染対策の徹底で生徒さん・教授陣もが安心して活動できる環境の維持に尽力ください。

(新型コロナウイルスの感染対策を再度徹底し、学生が安心して学べる安全な環境づくりを推進したい。)

*コロナにならない様によくサポートしている様子。頑張るしかありません。教職員全体しっかりお願いします。早い収束を願っています。本当に大変な時代です。お体に気をつけてください。

(学生の教育に対する満足度は、対面授業を実施して技術力の向上を作品製作等で可視化することです。その為には安全な教育環境を整え学生が安心して学べる環境を今後も提供していきたいと思います。)

基準 7. 学生の募集と受入れ

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて対面形式での学生募集に大幅に制限がかかった。学校情報の提供はインターネットを中心に行い、オンライン説明会、AO入学制度に関してはWEBエントリーシステム、WEB面接システムを導入し利便性を高めた。入学対象者は複数校を比較検討することができないのでカリキュラムの内容、学びの環境、教員との密度の高さが高度な知識、技術が習得できる利点であることを丁寧に説明し、高い出願率を誇っている。入学対象者の進路希望状況を一元管理しデータベース化することで教職員全員で共有し、学生募集にあたっては学内全教職員で対応できる体制を整えている。

基準 7. 学生の募集と受入れに関してご意見をお聞かせください。

*新型コロナウイルスの影響で従来の手法（募集・受け入れ）が通じ難い、一両年学園・先生方の対応にはご苦労が多かろうと思いますが、これを苦勞とばかり痛感するのではなく、新たな手法の拡大と前向きに捉えて対処して頂きたい。

（一斉集合型の説明会から個別に説明できる相談会にシフトし、高校生の自由度を高める。また、SNSや動画配信など分かりやすい情報提供に努める。）

*学生募集が一番気になっています。良い方法をいろいろ考えて進めている様子。どうぞ頑張ってください。

（高校生も制約を受けながら進学先を探しています。高校生の立場に立った受入れ体制を組むことが重要だと思います。）

基準 8. 財務

学生納付金収入は安定しているが、もう一段の入学者確保が必要である。新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて学内及び学外での行事等に制限があった為、全体的に経費は削減傾向にあった。流動資産の金銭信託は含み損が増加傾向にあり、資産が毀損しているので計画的に改善することが必要との認識から中長期的に改善する方策を講じ始め成果を上げている。

基準 8. 財務に関してご意見をお聞かせください。

*学園（企業など）での財務基盤の安定は必要・不可欠であり、学園あげてこの安定化強化に努めてください。（入学者の確保は教職員連携して事業にあたり、資産形成は従来の短期売買型から決算を検証しながら、中長期的視野で資産形成をする方針。）

基準 9. 法令等の遵守

警視庁、東京都、千代田区からの情報に関しては、必要に応じて教職員は朝礼及び全体会議、教員会議で伝達され、学生に於いては午前午後のホームルールで伝達されている。学生に対しては法令違反を未然に防ぐため、講習会や冊子の配布を適切に実施している。また、教職員の修業関係関連規則は全てを見直し、現行法令に即して修正を加え、パソコン上の共有フォルダーに保存されいつでも閲覧できる状態を継続。

基準 9. 法令等の遵守に関してご意見をお聞かせください。

*一部（国会など）に於いて、法令遵守を軽んじる風潮が散見されるが、企業（学園など）などに於いては、法令等の遵守は必須であり、学園に於いても、機会を設け、この啓発に努めて欲しい。（学生の皆さんへの冊子や学生指導要領の配布により、常日頃からの学校規則を守る習慣を醸成し、社会の規範、ルールを守れる学生を育成する。）

--

基準１０．社会貢献・地域貢献

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて学外での活動が積極的に行えなかった。
外出を自粛するなど行動制限により学生個々が注意を払い、感染リスクを減らすことが新型コロナウイルスの早期収束に向けて責任ある行動であるため、その啓蒙活動を徹底した。

基準１０．社会貢献・地域貢献に関してご意見をお聞かせください。

＊昨年度 コロナ禍にあり、社会貢献・地域貢献が制約されたことは致し方ないもの
と思います。新年度に於きましても、新型コロナウイルス拡大の兆候が強く見られ、
まず、学園・生徒さん達、教師陣の皆さん方の感染対策が優先されるものと理解します。
(新型コロナウイルス収束後に地域社会を中心とてどのような貢献ができるか検討する。)